

評価実施年度	令和 6 年度	学校名	大分県立 中津南 高等学校	
学校教育目標	「礼儀・誠実・進取・向上」の校訓のもと、自ら課題を発見し解決する探究学習など、生徒のキャリア形成につながる教育活動による「知・徳・体」の調和のとれた 全人教育を通して、豊かな人間性と確かな学力を育むとともに、持続可能な社会の実現に寄与する人材を育成する。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・極めて良い。 ・学校経営ビジョンが的確かつ明瞭であり、教職員や生徒にわかりやすく伝えられており評価できる。 ・スクール・ミッションやスクール・ポリシー、目標達成シート共に方向性が明確であり大いに評価できる。 ・学校長をはじめとして管理職や各分掌主任が業務に精通しており、風通しも良い状況が見受けられる。 ・教職員、生徒共にウェルビーイングを目指す教育活動が浸透している状況が見受けられる。	・学校経営ビジョンを更に可視化し、教職員だけでなく生徒・保護者・地域に向けても発信していく。 ・スクール・ミッションやスクール・ポリシーと教職員の目標管理シートが同方向のベクトルになることで、教職員・生徒ともにウェルビーイングの実現を目指した教育活動の充実を図る。
	PDCAサイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどPDCAサイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・極めて良い。 ・学校のカリキュラム・ポリシーに則り、適切な指標が設定されており評価できる。 ・生徒、保護者、教職員アンケートによると達成指標は概ね満たしており取組が効果的に成果を上げている。 ・分掌業務については年間反省の記録を取り、引継ぎができる体制が整っており評価できる。 ・授業研究会等を充実させ、指導のレベルアップが図れていることは評価できる。 ・分掌業務によってPDCAサイクル実践の差が見受けられる。	・生徒、保護者、教職員アンケートによる振り返りと改善を短いスパンでできるような体制をつくる。 ・分掌業務のPDCAサイクルについても全職員からの意見を反映し、改善・引継ぎの体制を継続させる。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。（ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等） ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・極めて良い。 ・ホームページや学校便り等により頻繁に情報発信が行われ、成果を上げている点は評価できる。 ・学校便り等の情報発信の内容に教員やOBのコメント等を入れ、更なる充実を図ることが望まれる。 ・生徒、保護者に年2回アンケートを実施し、学校への満足度や要望を把握する取組が行われている。 ・保護者アンケートにおいて、概ね学校の教育課程に理解が得られており評価できる。 ・部活動において、地域の慰問活動等の取組が行われており評価できる。 ・地域企業や自治体職員を招いたイベントを通じ、キャリア形成を考える機会が提供されており評価できる。	・地域に開かれた学校、行きたい学校としての情報発信を回数や内容等を含めて充実させる。 ・生徒、保護者へのアンケートを通して学校への満足度や要望について把握し、改善が必要な場合には早期に対応する。 ・部活動や「総合的な探究の時間」などを通して地域とつながり、地域に認められる学校として、今後も地域内外の関係機関との連携や人材を活用していく。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い。 ・多くの生徒は学ぶ意欲が高く、熱心に授業へ参加できており大いに評価できる。 ・授業によって、生徒の発言が少なく、生徒が教員からの指名を待つ状況が見受けられる。 ・「主体的」で「対話的」な学びの促進という面では、更なる改善の余地があると考えられる。 ・授業の質においては、教員によって差がある状況が見受けられ、改善の余地があると考えられる。 ・板書の丁寧さに欠ける授業が見られ、教員の授業の研鑽が求められる。	・本校に入学した生徒たちを誰一人取りこぼさないために、1時間ごとの授業が生徒にとっても充実したものになるように「主体的・対話的な」学びを促進するように改善する。 ・授業中の生徒の評価や見取りに対する職員研修を充実させ、板書の工夫等についても改善を図る。 ・生徒の学習習慣が定着するように、通常の定期考査を廃止し、単元テストなどの短いスパンでの振り返りと日々の学習が充実するように、生徒・教職員ともに現行の家庭学習や授業に向けた取組を改善する。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・極めて良い。 ・学校生活において、生徒は安心して過ごしている状況が見受けられる。 ・生徒が学校での友人関係に満足感を感じており、生徒の人間関係の充実が伺える。 ・いじめ等の状況はなく、また不登校生徒も少数であり、学校の適切な対応が見受けられる。 ・特定の生徒による保健室利用回数が増加しているため、減少のための各種対応が求められる。	・引き続き、生徒が安心・安全に過ごせる学校づくりを目指す。 ・特定の生徒による保健室の利用が増加しているため、減少するように保健室だけでなく分掌や外部機関との連携を深めていく。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・極めて良い。 ・交通安全指導やヘルメット着用徹底、教頭による校門での見守り、不審者対策等が行われている。 ・階段吹き抜け部分の転落防止ネットの耐用年数等の確認と問題があれば早急な対応が求められる。 ・AED設置位置や防災マニュアル等の情報共有が適切になされている。 ・避難経路の各教室での掲示等、防災関連の情報提示の取組が適切に行われている。 ・防災訓練を地域住民にも周知しているため、地域住民を含めた防災訓練の実施を期待したい。 ・空調の温度管理については、サーキュレーター等の活用も含めて更なる適切な運用を期待したい。	・階段吹き抜け部分の転落防止ネットの耐用年数等の確認を行い、問題があれば早急に対応する。 ・避難経路の各教室での掲示等、防災関連の情報提示の取組だけでなく、教職員に対して「危機管理マニュアル」の熟読と徹底を図る。 ・防災訓練について、地域住民を含めた防災訓練の実施の検討をする。 ・空調の温度管理については、サーキュレーター等の活用を含めたマニュアルを作成する。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しを図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・部活動指導等を理由に勤務時間超過が見受けられる。 ・「年次有給休暇取得表」配布により取得状況の「見える化」を促進する等、適切な取組が見られる。 ・外部委託等を活用し、教員のワークライフバランスを構築することが求められる。	・休日の部活動指導等による勤務時間超過が改善できるように外部委託等を活用するなどの取組を行う。 ・「年次有給休暇取得表」配布により取得状況の「見える化」を促進していく。
	学校課題の解決に向けた取組等	○生徒の主体性を育成する取組の工夫がなされているか。 ○スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの達成に向けた教育活動が計画されているか。	・主体的に自ら課題を発見し、解決しようとする生徒の育成が求められる。 ・地域課題を自分事として捉え、持続可能な社会の実現のために行動できる生徒の育成が求められる。 ・探究活動への特色化について、着実な努力がなされており評価できる。 ・DXハイスクールの取組と合わせて、外部委託の教職員研修実施を計画している点は評価できる。 ・地域を代表する進学校であるため、将来を見据えた地域企業との更なる連携が求められる。	・スクール・ミッションの達成に向けて主体的に自ら課題を発見し、解決しようとする生徒を育成し、地域課題を自分ごととして捉え、持続可能な社会の実現のために行動できる生徒を育成する。 ・DXハイスクールの取組を充実させるため、外部委託の教職員研修実施を計画する。 ・将来を見据えた地域企業との更なる連携を行う。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、保護者、教職員の満足度が高く、地元の普通科進学校として理想的な地位にあると思われる。</li> <li>・生徒が受け身である授業が中心であるため、教員の「良い発問」から生徒が主体的に発言したり思考を深めたりする授業を今後期待したい。</li> <li>・教員の授業の質によって、生徒の学びに差が生じることがないよう、教員には更なる授業の研鑽が求められる。</li> <li>・生徒と教員のコミュニケーションが良く取れているため、今後は生徒からの提案に「一人の大人」として真摯に対応し、生徒の更なる自主性を育成することを期待したい。</li> </ul>			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェルビーイングの実現に向け、豊かな人間性と確かな学力の育成に向けた教育を推進する。</li> <li>・文理横断教育を推進し、生徒の学びの質の向上を図る。</li> <li>・教員の授業の質の向上を図るため、定期考査を廃止し評価場面を増やした評価方法の改善を進める。</li> <li>・DXハイスクール事業を推進するため、外部と連携した取組を充実させる。</li> <li>・教職員のウェルビーイングの実現に向け、ワークライフバランスの充実を推進する。</li> </ul>			